

平家物語
十四

1960
12







平家物語卷第七

志雄軍事

母友別當實守討死事

西坂本赤山堂沙布施列

大宰大貳廣繼事

平家山門牒狀遺事

伏波左衛門尉重實事

平家都落給事

安高濤合戰事

母友九郎討死事

淨勢大神宮沙事

本曾山門捧牒狀

薩摩守親賴事

法皇鞍馬赤沙事

池大納言都留給事

朝總重能有重被完事

高倉院王子水注可付後事

平家朝臣... 大奉大... 西... 東... 志... 平家朝臣...

同日志雄軍小十部... 越中... 威後... 十... 此...

のあひこいこふれ旧城をめぐり評定せしむ
九部ありてけ人く甲ははいさ慶原
被ふみ十余人といつて源氏の所方まいらん
そのゆいんぬの流記もく平部は度く此
いらさよゆいゆきぬ源氏もらんしやう
うさうひぢしとらんくちり被ふみ十人源氏
のれくはりゆいあやへいさこはぢ
あよのこもらぬ源氏へゆいりりて一
定

はせんあらんをゆいけはゆいとやうゆりて
さいいと死れまのゆいせんはなはな
といひれいゆいもさゆいへいさそ
目とるよらり次れ目ゆいゆいゆいと
かのく源氏(まいらん)といてゆいらり
ゆいさいいとう別當實威かりゆい
あひてあゆんあゆいゆいゆい
ゆりてゆいゆいゆいゆいゆい

屋うらちうは我ふみ十余人源氏の出くは
いん^とに^と一^との實守一日也とやねいよその
事ハ海んひきりれ海一きり又らあさん
とらひりれハ海くもえんひも海一き
りきりれと祢とわがうてりきり
ハやとれくくさ事と祢とわがう夜あん
せりよかひりくわんくくもえりれゆ
く我ふきんくはくく海りりゆくくはくく

そ海いれは祢とのさういよはれけり
ものさうよさけく海いよとせきんく海
りりさうと祢とれとて一えん二定はあん
ハあさんととんとわゆわのれとんとわ
ゆとれハとてさうとんれとととけな
くいそえまうる海一とわいゆとさうと
目録ハ一取きてあんとちたりとてあ
海のとそ海くくはとつる海つるゆく

かりぬはなをゆへ年家よりさへさり
りしうしうれ契とわすとうらさうし
あこつふれはとせんをわうあつて
せせよせ給ふものあつて富の
らんしうせよかとしう敷かりい
かんておありさ給ふあはにゆへ
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
らとわしのら給れあつてあつてあつて
事よつたしうせよかとしう敷かりい
あよつたてみふしあつてうらさう
せうさうさうさうさうさう
あよつたてみふしあつてあつてあつて
あしよつたてみふしあつてあつてあつて
あしよつたてみふしあつてあつてあつて

ふのしやこあはぢうれいしたあふぢらてを
いさうらぶせうれていせあこはぢらり大
あゆまれいさうらぢらせいあさく
ぢらりやあぢあぢりいせんい
かいするにせいふたもぢくあせうらな
いせいふたあいせうらあぢくあせい
このしよまかこあぢあぢあぢあぢあぢ
えよあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ

つふらりあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
はぢあ一あぢりあぢらなものであぢ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
うぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
うてあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ

うゝとはん志をそへぬれしと東國乃
らとりの名人らある武士とそへて
くひもけしめてしんしやうまうはつり
し一留ぶつ勢も百の勢もはのせい二
百人十きとくしてあつてあつて
そのゆへは毎いきに十万よきは勢もみか
よれされははくす入つて三人よひちやう
しんあそはらあつたらとあつたら二人よ

じつね事やふふんじつね事か
を二百人十と二百人十は百きつてあひ
あつてあつてあつてあつてあつて
えぬれは二百人十とあつてあつて
てあつてあつてあつてあつてあつて
くゝはあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
うゝはあつてあつてあつてあつて

うなほしとて二百五十きとてじりいあひ
おとめとまきいまはめめとらんらん
あれ國の住人木骨中三檀守並遠
ちめんきえられめはめれとまは楠は次部
並克庵いきとさるものありとまいこうが
めりし如縁らうらて三名とまやまのま
二百五十きとあひくしてかあとのおとん
らんらんとあくしてま百き中へけり留

らうれとまきして楠は次部へまきいこいさえあ
ますなとのらんてられとてあくして
めやくめやうりま百まきさるらとて
中へさうりこめてあまひらんてあつは
ものもありあらあつものもありしらす
よせらものもありしらすしはあつもの
とらんしよたふひもら程よあつま百
三百まきいこられて二百まはら楠は次部う二百

お十きは百の中さうして此の事と百さ
よなりてさうしはといひてぬく當りな小務
よかきうれうらをかきかきおりにて物と
の行志あてかき張のゆくをせんとはらこ
ころよおとさう少白別高有重とてけい
まのうらこのさうにさうさうつさかおや
あいらさよ我一人と申すひさてのらさ
海一筋の人さうに申かきせてよらんさ

ろとかきかきとてはきいれはらさうおよ
んたらささうさうとされとさうはさうさ
愈いきれかきさうり武義三郎は清の有國
百きれ幾かよとあひてかきらきんてさ
よりか賀國領人林六郎光明二百又十三と
あひらしてお百さう申すあひてあけ入さ
ゆとあひてさうかきさうとてかきさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

のらるるんありふに秘とてあれ 三よを
うりれむうれよいおうーれうあまを
わーのまをいんひよきうー大仲ふあれ矢
九にうーあ教あーらそらよあひあーあけ
そりれら海んちうそて月とちうしあれを
くーあし海ーあまーまきうーあんのくあまえ
ありーうりきりあつれちおらんせいえんえ
うらぬあまれちうよとてあてうあひらら

と光明の甥よ野玄八郎光宗とて大れに
とこれあちうせ、あつたことくあてまえ
むいてあうーあてあてのあうとらう有國
うよあいにれいなるいんていんあてうし
ろくはとていんあてあてあてあてあてあ
あてあてあてあてあてあてあてあてあ
ううーあてあてあてあてあてあてあてあ
あてあてあてあてあてあてあてあてあ

よ矢十三とせらりいぬてられてよものはり
いやおりのらんを刃とぬて申しをせ入
てらるはくものとはきりあせくをふ
整え八部うれとんくきしあてらんて
さうとからうりのを國に大ちうとせきさく
かきと大事れりてこひあまこおしくようを
ゆりきるう整え十人ちうちなりうなり
なりとてよありくをあふとらりに整え

うらうとらあまこおらあいて有國のよ
ろいぬとせらりいぬてられてよものはり
とらとてこいふてられてよものはり
整え八部にきりぬてられぬと
とらとてこいふてられてよものはり
判友と百とせらりいぬてられてよものはり
人え海と部二百とせらりいぬてられてよものはり
小文海と部とせらりいぬてられてよものはり

妻とふとのあり又文海ふかしくよ別
對治良為之とふとのあり文海ね
此別對とふひていぢりハヤ、別對教
あれ入名よ目とあら流ふなあつて日
うとのえれけとらよとみく志流れ
勢と海と流してかこまれけくせ入て一
定うこれ怒とわゆつれとくはれとら
な流ねとてくつれととあつてつれけく

りよ大勢れ中へもせ入てかこつれて入
流つれとととらりけりけりよとと
乃うやうひたおらん言指別友長徳よ入名
ハいんてとらとわら長徳ハ二十七ハの
おと一人よとれあらうとらつれとの
あてありりり入名いさあてわうき小
男ぢれはとておえられり長徳初とらん
うとつれともやうあるとと見格流

世名のもさきんといわれは越中此國
後人又橋大なるちやくし入者小左良
為重しと年十七歳と名の長徳とれとさ
きりあかといとく初子見にあくか
乃とのかかおらちくし長徳はふみ
とのし十七歳とあつたといとた
りれ我と十七歳とちる子と
初さんと同年とちる初子見と
た

アととゆくといとたといとあ
うとととちりといとたといと
とちり我子と同年とあつたといと
ハ我子よじつといとたといと
いさおと別前に入者といと
入者といとといとありかといと
とといとよといとあといと
為重といとあといとすけといと

別封これとてあふあひまゝとがとひ
ていそきいしよあひありて長徳のあふ
とのてつんよゆいさけいへてけしき
うそむきあけてくひさかくらたし海原
きれよるりせのらあひあふ入せんといさ
おうしてよやあひあふとそこうこれとん
歌かよよ長徳のくひさは海原よりとそ
と入せんといさまゝしてんがれも入る

ハ平也おんすともあひあひなるくひとい
しうて入せんあけつる別封これとて
やれ入せん物よあふそのくひあけやく
とそおんす入せんこれとてあひあ
よあけてさそこのまゝよとらてゆり
てはれを言橋右部判友うくひあてはさ
やうひちぬらんれくひそと為せうん
うりよはらまゝうりてはとそまゝいしあひ

別府やそおいほびわわれい為重うと
ていふいあり入着とんうーあひて入
せんしとよひありさんころに言指
別友とんてちいよおえられてい
よあるえとすけよとやいほびわ
まーやとらんしとんあひとん
かりて長總ういよまいほよとん
とんいさおうしてもやがいふとん

とんおんすよとんあひとん
てあけてあひて我とんいふと
いふれいさえとんえとんていふ
とんいあひ入せんはとんい
とんいすよとんいよとんいあり
あひありこれとんあひとん入
せんやとんい別府とんいとん
ひいすよとんいとんいあひとん

中条海舟なりとの縁に、入せんや書は、
これにやうれは為書長徳よんてきよまに
えられたるに、こころよみの世と申はつた
あひこ、文海、ちやく、入せんの小名、
書、ちやく、初ん、十七、こい、と、名、お、り、て、は、い、と
と、し、く、あ、さ、か、り、れ、の、あ、り、我、と、十、七、よ
ぢ、ち、子、成、と、ら、も、り、初、ま、る、ん、う、あ、ら、と、さ、け
ハ、我、子、と、月、子、ち、り、種、つ、ま、に、む、く、と、あ、り、い

ぢ、ん、ら、と、は、う、り、海、き、と、と、や、お、う、く、の
は、や、は、う、海、く、ん、と、ら、こ、う、ん、あ、れ、と、と、と、ん、と
て、と、あ、ら、て、と、ん、海、と、と、ら、よ、か、あ、ら、と、と、ら
き、あ、さ、い、海、と、と、ら、も、り、か、あ、ら、ち、れ、ハ、二、か、い、ぶ
ハ、り、う、し、て、よ、こ、ん、と、ら、こ、う、り、ハ、ち、あ、ら、と、ら
く、ひ、と、か、り、ひ、て、ら、い、や、し、こ、う、れ、為、書、つ、こ、ら、と
う、り、あ、ひ、と、と、ら、れ、ハ、き、え、と、れ、お、り、と、と、ら
く、こ、う、れ、さ、け、や、と、の、く、う、ち、矢、と、と、ら、ハ、か、う

しんがとがはるるれ初られととていよ
おさくられあしとあらあさんころを
ハ定れくいと神ひよりこれかといは
うよ神うんあはうといひなく神ひに
せんてこれととああは別對つたりと
いありぢんちよは別乃あん一をうあえ
しーこれとハ別對つたりあらくいよあせと
そ下知せこれあはこれとあはうといひ

れこより長井あ友別當實守あられ
あきこれいこれとて二百よきやく
よせうるとせん一がよりあはれ國の
は人手塚別當二百よ十とそいひわ
いあういよこれとてあふ手塚つら
うんしよあしといひこれいさ神のあといは
よりぢくうといはれてあらよるりさ神と
あひいよりあしは一はよぢりあえ

ふりり平塚實ちとおのけくしきり
毎一人をまけてこゝろをわびくまれ
名のきやくわくしきり國又個人
祇方歌詠人平塚別當金判光威と名の
しきりこゝろをわびしきりしきり
利しきりおまきりしきりしきり
くわはわしきりしきりしきりしきり
くわしきりしきりしきりしきりしきり

沙流し—ちりしきりしきりしきり
一人のうりてこゝろをわびしきり
海しきりしきりしきりしきりしきり
うみてしきりしきりしきりしきり
らしきりしきりしきりしきりしきり
しきりしきりしきりしきりしきり
しきりしきりしきりしきりしきり
しきりしきりしきりしきりしきり
しきりしきりしきりしきりしきり
しきりしきりしきりしきりしきり

しら矢とらとめいこうかた事おくとおの
いてあるとらとはははくいおくし事とて
るにうしと國よつひのうとふし一時的にう
くし事とらとめいこうかた事おくとおの
うとめいこうかた事おくとおの
し事とらとめいこうかた事おくとおの
よとめいこうかた事おくとおの
ひんし事とらとめいこうかた事おくとおの

ああり世のゆいこうじとやとてあまはる
とらとめいこうかた事おくとおの
うとめいこうかた事おくとおの
あまはる
てああり世のゆいこうじとやとてあまはる
とらとめいこうかた事おくとおの
うとめいこうかた事おくとおの
あまはる
とらとめいこうかた事おくとおの
うとめいこうかた事おくとおの
あまはる

ある事ハ實守系と出たり日内古伝ありて
於ハ一年東國のうらてよまうりてりて
ゆーに一巻とてしとて浦原よりかきりた
りてゆー事実ありてなほゆーゆー
事ふゆこぢゆゆりてゆーゆーゆーゆー
ゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
ゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
てゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー

三祿とてゆーゆーは越前國の住人ゆーゆー
うゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
うゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
ゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
とゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
ゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
ハ四府ゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー
よゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆーゆー

さゆりりりれとあしまうしやうく(と)を
こより姉尾右部二百六十三えおめい
てかゝるんしゆのこよりか買国住人念光
右部百きれ勢ゆくじゆいあふ姉尾ウ二百
きれあふもせ入てきんくもあふ念光
姉尾よしゆけくてくんとそりあつる念光
ハ大ちうちぢりりれハ姉尾とそりあふ
念光うらうこりゆめさあらかさありて姉

尾といもゆるたきくりりうてきれとの
へいゆりりれとあしまうしと色いせ
こより伊東入道りきりく伊東九部二百よ
きめくわしやせうりきりこより根井小
矢太百きせいゆく伊東九部ウ二百きれあ
へいせ入てこりゆよこゆよきんゆく
根井小矢左ハ伊東九部小くんとそりあ
つ伊東ぬれとそりあふてくいとわくは

いさう九段のきんしたはくつゝうとせむるゝ角の
きくゆりか事ハちいさう入るゝ昔情体後
とうこんと四く儀しきりきむうゝな体後
よははさそまらしていはのきりく逃しぬ
かりふそそまらぬ昔情体殿坂東とうらと
てかゆらゝゝまきよらゝれゝゝめいさう入道
目くられあゝのこれかゝはよきうひしゝう
端し時九段とせしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

このぢりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れりれハ九郎中きりかゝゆりかゝゝゝゝゝゝゝゝ
こまき入てきんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はとゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
事めんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
んといまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てはゝ事ハ一切せまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かろ共いし海と結て事人ゆくるものかりい
海にきよつたててさうして志といえま
つる海しとすくれの昔傳ゆ後うらうあり
まをなまれものぢれいそらきりくきん
ら一人ありととろ礼よよるましとこ
らぬく神妓ぢりもやくいさよはなえ
いと梅とえをせつよそ九郎いさよはな
ては流つそ山陰たよそりてつるよもふ

うたれぬらうのわれあまなほきりな
らうそ今井植口楢根井人家ゆをた
一はさしして我おそしとせわ入あひこ
いされらん共ゆらうとあつたひし
いさあまらうく大庭の郎ら下は良ぬあ
ましく少せれりり回下は郎みよとらり
候らうりおきよ大ぢら志ありはれうよ
ありぬてよせきうらかた記よはいしひ

てさういふじやがひらん小島をいふは
とつるさうらとらわとていふていふ
に取波浪良経遠しよといふていふ
八自答一てう答よちり大庭お良みよ
うらあうてよんかきさやくあやといふ
ころよびや二まははてさうらわよ
まると二人とつんでさうのひまは
おうてやうてあはらとていふも根井小夫

あよふい乃お終といふていふ
乃軍権亮之位中納の終いなるは
まといふていふはらとていふ大橋なりか
うら小橋なり手なれいふていふ
うらあは終あふ七月一日朔日よ
いふていふはらとらわとていふ
いふていふはらとらわとていふ
ていふていふはらとらわとていふ

かよのよとそはおひめりのよこえさうりなれ
まことふたつよき髻あしくおめてあけ入るん
くよちやうりてひさく世は今井の
三百よきよあはれ入て又あうい
くりあうーういひくされの柳にさ良
三百よきを入つ急てこせあうりなれが
う記あまううらとあういさうりさきこ
あれの根井小矢を二百よきあひかして伴

へをせりりてせあさうりなれのまをあられど
んくしあわしせえいふれやくと下志
路くハ小室を郎又百よきとあいらせ入て
てせああめとくれハくいせあうーまの結
くよまけんーいよまもとくれをわいけてお
のめらよちんしよのいれに届いせさうと
とからうんやうそあうめらなれよけりまに
月の中は十方可なりそ下ーよま七月乃

いふよ海をてかへしおのるよはを鑑力と
つたに二万よりなれこる七方より北の山陰道は
うされてかきこもつたのりりよは
一りり魚をらんともうきさきさきいふ
やうとと流うして今これおのりりか
くあううこれおのりりいさういさうい
流とあして漢時ハたし奥とゆとさ
明年よ奥より一林と幾て狩時ハおのりり

とあうらうらうらも明年よ黙り一ほと
あて杜健よすくやち心と流うして
かく二宿共とのこらうありおのりり
り人ともありりり内大臣と祿とあの人
いさりけるがういさ海さとうこれ又長
徳とかくとと一雨あていさおんとも
おのりりつらわれとの原さとうこれ
おのりりハ大臣殿もつらうおのりり

よ父系家より来るは京なるかかれ思
致うへいしそくしほふはせん早身此
いと備え給て山家らん其いそ好生
とらふく小急くこそしりき家らん此
まへにものもれはこそいしれは
かみしし事かたりのちしあは門
戸としらてい念しよ念佛やあひあ
まハ京中ハ早い海しき事少てりあり

りり青天寶大まき。共敵驅向て河原
より去ふ月よ万里よ雲南よ新雲南よ
瀧の有り大軍流よりと満よ水湯のし
未幾十人り二三ハ死村南村山よ笑故悲
一見ハ娘嬢小初れ夫ハ信まよ小別致前
存愛よ証念あ方人引て印しりしあふ
事しし新豊縣波雲南ハ証致よかえ
まのて年二十に少く東原人志りまを

てのら身つろろ大石と抱て臂と鋌折
きらうとらるし強と敷よ俱ふ之とて
右此臂ハ肩よりよるたの臂ハ折よりよ
へしと雲南ハ征戦と悔ゆれ又此のこ
を勅賜て苦ハうらふわろこれとと臂折
てよりよれろ六十年一交をせこれゆり
とくとも一身ハ全しよまたいつろまて風
吹ぬより雲らりりうゆる夜ハ天ハ明よ

いづるまて痛て石眠されしとと後悔と悦
まよハ老ハ身此まよたある事ととろろ
まよ一尺當初瀆る此頭よ死て雲南此
を卿の鬼とありて万人ハ塚のくよ哭
事幻くまよ悔よよひハ八十八から
まを雲よはよりとと人とも玄孫ふよまけ
らとて店前よ祈命あれハかふる事よ
とあつるあや

一枚とありては、揚花八斗ありては、
八月廿四日賊徒事院沙可にて定有
大臣經宗右大臣龜實左大臣實定皇孫
交大臣實房攝河大納言忠親梅小路中
納言長方よ此人とありては、攝河右
大臣を悔しり給はるるに、右大臣大就以
恭順と成つて、いふく攝河大納言忠親を
悔しうく、所祈禱おこさるるに、きよしと

なりとありては、右大臣八門とありては、
ししとありては、
大臣、東寺にて秘法あり、
ありては、
きよしとありては、
いふは、
いふは、
なりとありては、

師經共千僧の所讀經とが、あるくしこ
 也と共草乃水新也水花小半作而一
 法未蒙一院別當に中身並光顯位
 世とう摩結く羅沙法あり新事共
 代廳宿水而絶法事とありて西改平
 赤山堂とそこれとひしきまよ小法師
 たりてうまはあり一人とてあり
 本より法師とあり又も成心なりとて

そねとのありるりてるあり公の
 友と法師と事とすま曲代廳友
 烏帽子とらおとされてえくの事
 此ありるるるるま曲代とて
 けりへいそれとてる神事佛事
 一うてとてとてとて同日苑人
 清門檀依定長うとて祭主神祇大
 大中後親後殿とて小めとて共草

は大神まへに幸あまきりしりさ
終ひりり大神まへに首高天原より
あまきりり海しきと雲仁天皇少
宇女六年しりし申戌二月本御塚園波香
歌いし月乃上まにいに神よたまねふ
うききそそ祝しあそまらるる
より宗廟社稷の天照少神あてに代と
よ崇敬なる事昔謂六十余州乃之あ七

百餘社れ大小神祇冥道かも終て海し
し加しと侍く帝入徳幸ああましりま
ら此少門のれ時名大臣あは等の孫武敏
卿宇合れ少子名也海檜少補益大率大
戴友原廣純とふ人ましきき天平十
二年十月小肥前国松浦郡あま二万人
此凶賊とあひしりてしんあ
帝とあまけそまらるる

きんえーは天野東人といふ人
とちぬらんぬく國く友共二万余人習
ありぬくこくはるりてうらおとされふ
きんえぬいぬりよ同十一月はけつ先
大神交へ祈幸ありきんえとされぬとい
てきんえぬくかの度述うされてのらされ
に靈あれておそるぬく祈事ともぬか
にちり同十八年六月は天守府にきんえと

ぬんるぬくせしれきんえよ玄防僧正とい
ひぬく人と導師は後よりとにぬかよ
度かきぬりぬく雲に申よりぬくとい
へりてぬかの語にとるぬく天守府に
ぬくぬりぬくぬくぬくぬくぬくぬく
ぬくぬくぬくのまといと神とあつぬくぬき
ぬくぬく松浦乃明神にぬくぬくぬくぬくぬく
ぬくぬくと入信して法相宗と名づぬくぬく

多し人なり入唐の時宋人子名を
詔して玄勝といふは遂て己とふ通
者あり和胡よびく事ありあふへき
人なりしとありしやけりし
の。後へてのらかれ首と眞福寺西合
堂れも念よおうして定よしと初らふこ
念ふりい寺は法相宗れ寺なりとゆ
なりしとありしは其礼の時沙弥とた

てらりし事ありしや詔滅天皇の沙時大
同み年庚午平城帝尚侍のときありし
せみこれ終はなりの時乃沙弥小侍
あり帝れ中皇女有智内親王をかし
此い後路よまゆてまらうせ終さうれ又
母院れしゆなり朱雀院の時天慶二
年庚寅將門純友の心ありの時れれ
やんしんしれまらうしゆなりらん

もかゝるの例とて、その神の位をき
こころ、木曾冠若狭仲八度くみ合致よ
うらうらて六月と旬は東山山陰二入
道と三年よらてうられは東山通れせん
らん、尾張國すれまゝ、川は流く山陰通
れせんらん、越前國すらん、評定志ける
八柳山門大元いさゝか、平家とさなりおれ
く、あはれとさらの、いんとも、小東坂

おの、前小車は、城かゝる、唐藩三河
鹿子くさり、くま、いんとも、例の
山乃、大元れ、くま、あやせんとも、
らやうりて、さげんとも、おれとも
高村、平家、いん、神とも、いん、音と
ゆかり、治とも、いん、おれとも、
まはり、おれ、いん、いん、の、
歌もの、いん、いん、山門の大元

とわらひはうん事とさうしとあつて二
まじりて一とされはてあれ事とさうい
てのちうかさん道とさうさうとさうよあよ
うたれとせやせんとあれとあつてき
とひはれはうんさよあひりてうりも本
曾右左かひあつてうりて山門は骨法松う
ちうとんせう事とさうおひくさうく
ちうれはひみちとさうさう事とさう

とさうものあつてはあつて事とさうこれと三
よ人一回は年家とさうとさう事と
あつてちうとん一とさう一とさう
ちうはたしとさうとさうとさうき牒物と
はうりてはあつて事とさうはあつて小見
えぬぬとさうとさうとさうとさうとさう
ちうとさうとさうとさうとさうとさうとさう

とハヤク光明寺にきゑりておぼしめされし
めハハレハせんせんあり勸光院ハ世古
苑人トシテありきりハおぼしめて西京房
信教トシテハ信教素良トありハ信
時ニ井寺ヨリ藤州ト南都ハツリハ多
ハ信教トシテハ信教ト書テありきり大政入
道淨海ハ平家ト糟糠武士ト藤芥トハ
きりりハ信事トハおぼしめされし

ひくくハ信教トシテ信教トシテ誦さん
とハハレハせんせんあり勸光院ハ世古
苑人トシテありきりハおぼしめて西京房
信教トシテハ信教ト書テありきり大政入
道淨海ハ平家ト糟糠武士ト藤芥トハ
きりりハ信事トハおぼしめされし

よありにたりかきしして南にたまは
くらゝよあけられとも手からりものな
かりきり信救み成法のかりあくはさ
道はんきとかりひてかまへくはかりあ
新よ十郎苑人の家平家並討入た
先よ東國よりびくせあはりるるる
俣川あて平家と合戦とよく新家えん
くようらおとされていさあきとく三

河國新よつぎそありり新よ信救新
合く新家よつぎにたりはよの癒よ
あつらりりれハ次平小膳殿とあつて
ゆきれ信救あけりよたり新家三河國新
ゆく信勢大神文へそまわりき信を
むきよ信救え書りり信を信新
家吉備信よ中さうひて信流へ教て本
曾よつたさりあつりしして信救本

曾と由れんく改名しそ 本曾と久光
明と元とを流山門への藤州六月十六日
山と。投露と大講堂庭の會向しそ
と投入しそと物云

奉親王宣歛令停止平家逆乱事

右平治山東平家誇張しそ貴賤等平
緇索戴足赤逆止帝位恣虜掠諸國或
追捕權門勢家令及恥辱或搦取月卿雲

家子令知しそ流方就中流承之後十一
月移法皇之流於鳥羽故宮遷博陸
之配流於夷夏西鎮加之不浪家各是罪
失命積功奪國抽忠解友之害不可得
討者歛死而元人云道理以自同之也
至去流承四年八月申旬打圍親王家歛
別刹利種之目百王流天之沙道未也
至負本州守儀之神冥尚在本宮故

存深德駕於園城寺既畢之時我仲先
源仲每依區息芳恩因以奉扈從聖日
鳥飛來令負急通有可急衆之催奉
車嚴命欲令於衆之變平亦安以事
前在入為暖義我仲乳母中原道遠之
身予之止位而付之詞之慈歎滿園中
泣是相順心身速山將東而為亮之名
未及衆決之時之小會議云園城寺為
神比形平均不能樂歎仍在此彈於南
款之故城遂合我於字派橋邊之別於政
卿父子之人仲總益總以下舉介打立心中
相逐之石被討若多適若少骸埋龍門原
上之古名施鳳城於之凰宮舉哀我令
自教度之約一時耶衆會悲式同門親
之舉一旦張面竭事作貴山被同之當
志我我台令与力平家惡送我我若我黨

全与力志定我等不意對天台元統全
那介之合我欣速就平承值過之合儀
被修當家安穩之新禧若猶是承河若
自賦慈光心流定有元流後悔歎也氏觸
申事介那畏元流之武勇備只言帝臣
之寶故也河况敵山元流孫護持國家若
先朕也詔書云朕是衣承相之末葉也慈
光大師之門流也是則慈惠濟正流而後

後之駭也早遊波先親上祈請百皇母為
之中下被廻方民豐饒之計若七社權
現之威光益威之埃元流之氣力新成
歎爰義坤以有肯之身誤打廻女余尚
因涇渭之石水回誌底園而遊乃貢之進
上誠是自然之恐我也申而有餘謝而罪
通皆之勇更將心結友之類神石稟那礼
之肅全知見心中之精勤外宜以此等趣

旧令達之子女元流亦被受重責賤若
しよあし雨もや一期之懇志也義仲忠愷
謹云

嘉永元年六月十日 源義仲 申文

進上 惠光房津師沙房

山門之子女元流本當の膝物と見し令
儀あらしくなりありふいふ事なれしと
致しありありありきん——の如しよ

所心せしふれとありされしありし
れきんきゆらしありしれとせきん
神小専令脇聖主天長比久しありきん
つら平家之書書れ沙如威山門中一
致ししこれしとありしありし
しやうしこのりきされしも頃年より
されししを悪法よしとありし
礼とがう一人とれしとありし討

と流るる海とソリとも徳園へ還て異賊
よおいかくされて厚く逃歸畢止れり
一は佛神を加へ護運命と傳よれり
ゆ致よるくあり源家ハ逃歸厚く此合
致よる此くして官水管の徳と積威何
到る運命既完ゆり河高の獨宿運命
少兒のる赤家ハ日意して人光いり
了り致源氏とてこく一もやけ條山五七社

いさう若遊乃真意とありかし
就中
今此膝送れ趣道に飛せ半頃平家値過
乃かりいとひるかしして東源家合力此
かりいとほと人き自一日よせんうして逃
膝とかり候と云

右六月十日沙書付曰十六日到来投園
しる教日く昔念一時解散故河若源家
者自古携武弓在仁朝廷振威勢禦王敵

爰年家共背胡章起兵亂皇威好謀
致身被征伐平家共爭保弘法哉爰源
家被制伏波類之名追捕取本寺之子
僧法為依後損赤社之神興元流等深
新詔歎連業田之寺寺為苑身幸授
芳札於今共承龍平家為德之祈禱連
可隨源家合力之令儀也是則歎胡威之
後迹悲弘法之政賦故也夫漢家貞元之

曆後宗興隆本朝延曆之天一案弘宣之
後桓武之皇興平安城親崇教一代之時之
弘法傳教大伴因天皇山老在初百王之
為之沙弥中守金福後也神在之子
之丹心翫天愛拂地天作是一山之効驗也
因茲代之賢王皆作龍洞之精誠世之重
臣悉恃台岳之信心而得一乘院沙字之
時偏慈竟大伴心流之自編言明日也

九条右丞相并沙囊入道大相國為教文
日報右黃國之重臣願為白衣之弟子
子之孫之久因帝王自名基代之世之永
均大伴遺身之道因教賢王事為之德
加之水派二子為羽法皇奉獻山沙教文
云首踐九女之宮位今列之子之孫流若
也清思之感波雖押靜業之隨喜尤深
皇霸心百迴皇德二十代天胡久保十卷之

位德比普族以海之民守國守家之道
場為君為家之寶路也運上本守子信流
物雖作末社神興末守誌名園併如舊被
安地共之子人氣流合掌而初玉神於東
海之光一山揚發而頌平家於南山之
及凶流頌首來詣慈歌東平乞降十乘
席之鎮扇日月之風之密壇前遙際十
旬之為者依元流合儀枕蓮山好

獻山者桓武之皇沙宇傳教大師入唐
海洲後弘智與散法於斯聖德會那大戒
於壬午心來為弘法繁昌之靈塔久備
鎮護國祚道場方今伊豆國流人前衣
告清權依源賴朝不悔身過還朝初意加
之与討謀致源氏義仲討家平凶黨因
心救掠救國去貢押領万物因茲且返累
代勲功之蹤且須當時弓馬之藝速也

討賊流可降伏凶流之中為衝勅命頻
企証伐爰奠麟鷲翼之陣宿軍石均利
早旗電戟威逆流以乘勝若非佛神之功
被平鎮致逆之凶亂豈以一白海天名之
佛法而退特日名之非惑而已何況奉憶
且等之農祀可謂本於余哀亦可宗重
弥可恭敬自今心好山門有慶為一心之壽
社家有背為一家之背付長付惡成喜憂

各鴻子孫永長失墜藤氏者以去日社
興福寺為氏寺氏社久由依法相大系宗
當家者以日名社延曆寺也氏社氏寺親
值遇亦實頓悟之教波若遺跡也為家思
榮幸是今之精神也為君請討罰作願
山之七社王子眷屬東西滿山灌法聖元十
二上願醫王善逝日光月光十二社將照
無戴之丹誠系唯一之玄應此則邪謀逆

心之賊東平於軍門暴虐殘害之流傳
首於京都我等精於佛法佛神于孩幼哉
仍當家公卿等一以同意作禮而祈禱也伴
敬白

壽永二年七月日

資威
從三位平朝臣通威

從三位右邊勳權中將兼丹波權
守平朝臣維威

正三位右邊勳權中將兼但馬守

平朝臣重衡

正三位右邊門督平朝臣清宗

參議正三位右邊太皇太后御衣權大丈

兼修理右大臣前權守平朝臣經威

征夷大將軍從二位右邊權中納言兼

左大臣時平朝臣知威

從二位右邊中納言平朝臣教威

正二位右邊權大納言兼陸奥公羽按

兼二條使平朝臣賴威

前內大臣從一位平朝臣宗威

近江國依之木庄領家願的公等止為朝

家安穩且為資故入道兼提辨所迴向于僧

法新帳也伴庄早為守家沙沙法之

知新録の巻之禮し

七月廿九日

平宗威

禮上 元主僧正沙房

此の書ありり信大元と改めし書は
延暦二年僧教大伴當山よのり給て
法護國師は道場と同一系當宗は教法を
ひりめ給しより改めし佛法さるりよ
しと書法と書も書年いしし 志か教と

け二之子のあひく東國山國乃凶流等
左これ通とて少くは國稅官也と云
ゆは年貢亦高とてくはるし 羽家と
かこ記して編云よとてつ次あまの
之記くせ免れんんとて防戡よ力して
よは記述は神明乃此資にあつらんよ
りも亦も年貢意とありらん山王と作あ
られとてこれ給へ二子の元流らるとあ

に於て是れを以て其の人の名に
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を
其の御心を以てその人の御心を

よしとあれども許容と爲れ
とぞりけりなりとれ人の心は
の面白きを源氏に傳ふなり
きしとてけりなりとれ一定源氏からて
平家ゆけんとてその人の御心を
此の御心を以てその人の御心を
ろいひけりなりとれ十八日此の御心を
貞能の御心を以てその人の御心を

よしとてさくはれハニテ後三門めんゆ先よ
きこひおらるるをばよ菊池次郎城郷と
かまへてさへこのはあゆむはちとくせ
めおらうかこくありきるよ貞徳九州の
軍兵とりも残してくれとむじ勢軍兵
おるくうらおとくれと責残よらうな
し一と滅と字比かこめてまのは日取次
りりふりれハ城ハ旧よ共根未成はる菊

池つよは陸人よはらりよらり貞徳九國
一と共根未成は羅と麻宿一人筆首使二人
貞徳使一人と後敵八十余人槍門勢家
此店蘭といふは責羅菊池原田の意敵ゆは
と故等と相具て今日入洛と未尅はる
よ八条とむしと河原と少く六とくは夜
取く是よりりこ勢ハ門よ九百よきよは
よとらうらけ孝前内大臣宗威車と七条

小くそく見様なりよるはきさくはよの二
頁より記されは。前薩摩守親光うたわ
とれとてしきま。まじりあむうな。赤威
めするあひそく。白き。元も。馬。よ。余て。貞
徳。う。全。形。は。よ。う。ら。多。り。昔。利。領。刑。部。に
總。方。孫。相。模。守。親。憲。う。子。り。り。勸。修。は。嫡
く。や。指。武。勇。は。家。よ。あ。う。と。ま。こ。い。分。け。り。事。を
や。せ。ん。親。人。う。た。敷。あ。り。り。今。日。武。士。よ

は。目。と。わけ。と。う。け。人。と。え。ん。は。は。西
國。ハ。儀。平。さ。う。れ。も。東。國。ハ。い。ま。う。勢
は。そ。と。え。よ。越。く。う。ら。の。や。は。と。き。こ。え
し。は。平。家。治。平。よ。心。ま。く。な。り。て。ふ
せ。ん。さ。う。ち。う。う。と。は。は。さ。え。越。よ。あ。と。紙
う。め。こ。う。は。れ。ハ。内。と。院。と。も。引。具。は。い
ら。せ。て。一。ま。と。あ。い。も。う。次。あり。や。は。は
と。西。國。乃。は。い。く。落。し。給。ふ。し。よ。う。と。え

ハ曉あけ滅ほろようはきき侍し事じハハ源げん氏し依よ後ご右みぎ
侍し尉じ重じゆう實じつととふふとと此こゝありあり一ひと子こ統とう宗そう八はち郎らう
為な朔しやく、と出い江え國くに山やま守しゆよよおおられられててありありむむらら
ととわわくくくくいいくくもも侍しよよええ右みぎ侍し尉じ
よよぢぢりり者ものんん一ひとにに多たれれををれれてて平へい家けよよ
へへいいららひひららるるるる業わざ人ひと一ひと端はたららりりああひひりり
てて勢せいととああららりりてて夜よ半はん斗とよよふふははれれよよ
此こゝよよてて山やま國くに乃の源げん氏しととええよよああををれれ國くに一ひとりり

ら入いて通とほくくととううららぬぬ人ひととととと成なささ
うう侍しよよ一ひとととししぢぢりりらられれハハ六むららぶぶ京きやう侍し
侍しととああららりりらられれハハ新にい之し任にん中ちゆう侍し
資すけ威ゐハハ大だい將しやう軍ぐんとといいてて貞さだ能のう山やま下げ守しゆ依よ
指さしととめめくくとといいてて出い江え國くに下げ向むかへへとといいてて夜よ半はん斗とはは守しゆ
依よよよとといいてて侍しよよ二ふたふふ余あま端はた又また新にい中ちゆう侍し
之こゝ知し威ゐハハ右みぎ之こゝ任にん中ちゆう侍し之こゝ新にい中ちゆう侍し大だい守しゆとといいてて
一ひととといいてて侍しよよとといいてて出い江え國くに下げ向むかへへとといいててれれとといいてて

夜ハ山之北ニ宿トシテ曙ニシテ余騎ニテ
程ノ源氏山ト云ク向公ニテ一ノハ字
浪濤多ク是ハ舟ノ一ノトテ山曰ク此地也
舟ノ北濱ニ津河尻ト云ク此後より小松と
浦ノ北ニ湖ト云ク東浦より西浦ノ一ノ和
一ノ十日ハ林六郎光明ト大納言ニ
テ又百餘騎天名山ノ一ノ舟ニテ惣持院
ノ威厳ト云ク之境ニ大元曰公ト云ク大

嶽トトテ平家ト討ト云ク之舟ニテ凡
東坂ノ舟ハ源氏ノ舟ニテ云ク一ノ舟ニ
ノ一ノ新ニテ舟ノ一ノ舟ノ一ノ舟ニ
入舟ニテ舟ノ一ノ舟ノ一ノ舟ニテ惣
又十郎義人ノ舟ニテ津國河内ノ舟ニ
道源氏ト云ク河尻後鳥ト云ク一ノ舟ニ
舟ノ一ノ舟ニテ利列友代義清ト丹波ノ舟
ヲ成テ大江山ノ舟ニテ道ノ一ノ舟ニテ

きくわのりきりれハ平家の人々多し
なりくさつきあひりり権亮之臣中
維威少方の結りる我身ハ人々あ
ひりて結玉つきあてんといふらん
此れ末山のもつと相具えらんは
くさくさうとともおんれきともさ
ハハにほくはさるほくハ此ともみれ縁の
たよむく縁よこしよん事んしり

前も源氏道と結りてさうがえん
さきれハハくさく事とあつし
あもなれものときさく結ぶともあ
りしこくさあめやれ結ぶともあ
ならん人もさく結ぶともあれ
さきとさくさみ結ぶともあつし
あつれに結ぶともあつし
さきと結ぶともあつし

てうりあはよむをうよ。恐縮ふこゝろ
ら別くそ悔りばうあーさあも悔るさ
心なうーしあがゆれとそあは縮ふよ
きみおんうんれさうよ。悔まんと
女房よれま怒よほこいさるもこれさ
さうて怒もさうさ治あはひらりあ
理とあ母えてあつれありよれあのこと
り中沙門新大綱言成親心の由あす

あはらうかんとあはこくてあはうよ
さうー悔と事とよれつ祢あはあり
うーあはこつれハあへて人よん人事
よこーあは母うれて女沙さうれよ
さうさうかりひ縮りりあはさうしれ
ハ人くあつれとかりん怒ハあはら法智
あゆさうさうあへてあはよそあは
あはらうあてあはひてあはあありつれ

さしとられしよしありしやそは世事や
よせ給へん

雲射り吹雪風吹けしそは世の露かほらほら
さしとられしよしありしやそは世事や
成親に法皇は世去ありしるよしき
給てありしよしありし給れしよし
きみありてきて入給し親乃は世に
孝れ人よしありしよしありし給れし

若しとられしよしありしやそは世事や
よせ給へん
さしとられしよしありしやそは世事や
成親に法皇は世去ありしるよしき
給てありしよしありし給れしよし
きみありてきて入給し親乃は世に
孝れ人よしありしよしありし給れし
若しとられしよしありしやそは世事や
よせ給へん
さしとられしよしありしやそは世事や
成親に法皇は世去ありしるよしき
給てありしよしありし給れしよし
きみありてきて入給し親乃は世に
孝れ人よしありしよしありし給れし

いふつるぢぢぢと泣くはあいのちなるははははははは
さう泣ていさじまひてせく泣りり共
備依うれきんくほまうおふ人あ
こしとちりよりれあよとあふん中
といそくちりまきとうほく疎りりは
ハ女乃あふとほくあはてハか屋うのあやと
うり神といのりぬりし中を結てあ
らまの河きあ事あくゆへ我事はれは

きん波とあうて我勢あは人志れと
おふ事ありいんああ思及まあり
しれせ乃中よつぎせぬおりのは
あひれハあ事とあハあはれま
あさうらうとあハあああああ
あおさあくああああああああ
あれああああああああああ
うんああああああああああ

ゆくは、後、うらみ、なを、そ、り、つ、り、れ、
い、め、ま、ん、ま、け、て、あ、り、し、教、上、人、の、
ま、ん、ま、い、の、ん、を、大、く、う、ら、み、の、い、た、
す、く、あ、く、願、て、い、し、事、を、ま、り、し、
は、け、せ、め、お、も、ら、れ、仲、と、ま、り、あ、る、
し、う、い、う、ま、り、あ、く、ま、り、は、あ、げ、ん、と、ん、
と、あ、り、て、ま、い、し、の、後、ハ、小、松、友、兵、衛、ん、
ら、燈、亮、が、お、後、に、ま、り、中、に、あ、る、ま、り、し、

つ、ま、り、ハ、ま、り、れ、は、事、あ、や、と、若、者、は、あ、い、
て、小、松、友、兵、衛、ん、に、あ、り、て、あ、る、し、れ、
は、事、な、と、ま、り、れ、ハ、お、も、ら、れ、あ、り、し、
ま、い、の、い、ま、り、い、し、れ、は、事、を、あ、り、し、て、
ま、り、ま、り、し、り、ま、り、し、り、ま、り、し、り、
ま、り、ま、り、れ、ハ、ま、り、ま、り、い、め、ま、り、し、
ま、り、の、は、仲、ま、り、若、者、ハ、十、歳、の、い、ま、り、
ハ、ハ、ま、り、ま、り、ま、り、我、ハ、ま、り、ま、り、し、

つげゆりしつたてうれとなはた代といん
とそ若君と六代此節と我中なる姫君
と八代又少おとせきこころ

平家物語

女目言冠はらよよとふのひてさる
よゆ幸あり世ふりとも人もみめて
事いそりりしそて人くあてこころ
あつ小面下福法住守あつ流糸ていそよ
法皇のりき流小面別當有重とてあ

ひつししつらけ二三年平家よ。書流
少あゆつらゆい海りりしつら平
家忠後承いあつ西園かららるん
とそつらよひしあ流は流りしつら
らせんしそふん家としんまはつせ
君と六代らふしそせ流ハ安しキト
しつらしそしそて人くあつ流のり
つらハ法皇ハ流りしつら流りし

くまのいづる路のうらみはらんせいのたより
らまのいづる路のうらみはらんせいのたより
へ入るもされとらふのいづる路
天と地とを分けたいやうな
んせいのいづる路のうらみはらんせいのたより
いづる路のうらみはらんせいのたより
はらんせいのいづる路のうらみはらんせいのたより
まのいづる路のうらみはらんせいのたより

はらんせいのいづる路のうらみはらんせいのたより
てともかくともいづる路のうらみはらんせいのたより
ありきかたのいづる路のうらみはらんせいのたより
事ハなほ事ハなほいづる路のうらみはらんせいのたより
まのいづる路のうらみはらんせいのたより
らまのいづる路のうらみはらんせいのたより
まのいづる路のうらみはらんせいのたより
中をせよいづる路のうらみはらんせいのたより

事と下らうよさうせつれは披露する事
もありとあしくいそ一かしてあれ女房こ
しつうはたと法皇お母世ありはれは
前ころううはねしと事とこうあれ
もてあれしく長てやそはうとつう
はとせいせうれかきれこの西は小門と
作るとせうせましゆと淨衣きしゆは
おとこ一人ゆりりあふあれはとと事あ

れは為末と名れは法皇きこうしり
せ給てはともはらまうれと母とありは
はまひりりり年長河邊氏人お末と小
面よゆらなるとのちり七条京極と小
いとげとも母せありはれはおれとあせ
よけりてつうまうは為末らと此は幸う
思われはと法皇は幸あてありなるよと
ちりもり人としりぬらよ二取とて定し

め記のいしてふねひし念めて女房しつら
あつらひし勢も心忘られハあやしとわひ
てきてはれハ少しお心もつら世路のぬハ
ほらハやんといへさつ身あがり季康あこ
ましとわひといへんはらうしとせま
つらつら書はるは旧習ハあつら女流の所
出給ぬ程なりやそ女流ハ世路ハま
て旧大位殿よひしつらとてまつらつてあ

よりと書し旧習はあつらとてさつてある
ひ變めてよもつら事あつしつら事ハ
てえあつらんとお給ふつら世路ははる
あつらとせぬつら給てつら祢ましとせぬあ
れハ表書らつらぬれは人々とぬれハ
まつら海しと女房丹は心つらとて
しとめとつて一人とつらつら世路ハ大位
殿とハつらとつらわつら世路ハとつらと

道はれゆると我うりゆりゆり留りゆりとい
ふ人とけりしとておのくはれあがりあさ
ましあさいふはりりしとて道はれと
あま思はれしとて世はれすとてあまあり
りれは上下はれんとせあまありてあま
中はれしとて事なりあまありとて
平家入人くくしとてあまありとて
ら入るんとあまありあまありとて

とてあまありとて平家入人くくしとて
てありとて平家入人くくしとて
さゆよとて一人とてあまありとて
はれしとてあまありとてあまありとて
そとせられしとてあまありとてあまありとて
給りしとてあまありとてあまありとて
ぬらしとてあまありとてあまありとて
あまありとてあまありとてあまありとて

よせしりおのちけみ足風聲と日海此
浪よのこくしむあなわく神ももてし
たいにけむ足水よひるれい何んが
神璽寶劔よりうー建礼門院とわ外
うしよあそまろく内侍取しと
まろりぬ平鑑時簡玄上鈴麻よいつるま
てろりるまーと平大納之時忠下
給りうれともあまりにあそあけられ

ハそりおろす物か舟りりり畫沙見れ
水劔とのうーうあそまろりはうーとさ
せ給りれハ前ねよい人ハ平大納之時忠
就从給養ハうりえ衣冠もあそり
あそりもあそりあそりあそり
月也御總体しうれあそりいとき給り
女房ハ二位殿とあそりあそりて女
房あそり十こらあそり馬の上れ女房ハあそり

あつす七条とありし未産とみあふ以
幸の歌後をたれやうなりし事も
なりし歌後とみあふなりし事も
幸の歌後とみあふなりし事も
あつす七条とありし未産とみあふ以
幸の歌後をたれやうなりし事も
なりし歌後とみあふなりし事も
幸の歌後とみあふなりし事も
あつす七条とありし未産とみあふ以
幸の歌後をたれやうなりし事も
なりし歌後とみあふなりし事も
幸の歌後とみあふなりし事も
あつす七条とありし未産とみあふ以
幸の歌後をたれやうなりし事も
なりし歌後とみあふなりし事も
幸の歌後とみあふなりし事も

六波羅の齋館西八条に逢屋より
あつ池邊小松屋の下人と此家前二十
余戸一とよちとけつれハ余炎軒十
町ヨ、おひて目心光七んくうりりり
或階下誕し此靈詠龍樓幻雅も宮博
隆補依此吾和或相對坐相齋室三六槐門
乃故亭九蘇悲響此柳也門前繁昌堂上
榮苑砌也夏也幻強吳賦兮有荊蘇娘履

臺之露漲く暴奈表也無席根咸湯文
く煙片く之り若ん漢家之十六宮此
楚項羽ノ為女被亡若ん七是也及也道
とそんく一そ常去氣随風故有涯暮
月伴雲隱誰采花也去氣反不驚可憶
命葉与胡露在易零蜂蝶戲風愁逝之
樂幾許蟻蚋諱露合致之發情韻崑因十
二樓上仙之棲紙空雖殊一万里中活之城

不同多身經言一時魔賊法皇仙洞と
出せとくくくくくくくくくくくくく
八風關と云て西園くくくくくくくく
白皮八衣狩山乃具よくくくくくくく
由院まみやくくくくくくくくくくく
みくの洋色よかりこれとそ結奴平家は
初らこれとそ深氏とそくくくくくく
初とそよとそくくくくくくくくくく

ふたむね天比岡開きりこのこいひあか
ふまありふはふれつちりまの
聖徳太子未系託あも今日其事とゆ
りこれ平相國禪門と八条大政大臣と
ゆき八条より山坊城より西方也一町乃
亭ありしゆかり家の邸八入道のちせり
れりありきよやけよ此大小棟のかとふ
十条よおとくさふちりてのちりし

西大政刑了郷忠威れせよか一云亦やあ
ハ六ちりつ末笑哉河一町とくさあし
は方一町ありしとけお國の附遠比あり
これとあす百七十余字よおよあり
ち道のこちりせ山の鞍馬路よりしあ
ひりこれ大道とくさく辰巳の角小松屋ま
女余所よおよふまき送作とりし一
りくちんはい後京れ玉郎等まんとくれ

江戸にまはよ。これとがふれは父子二百余
宇の部こ一とたらりいとのりり一車
おひさし一すといふはり何し法領と此
院内はりハ一り一屋はりはれはれはら
うりあそのこはとありい一程は筑後守家
貞もゆめを改刑部以忠威入道相國小
松内育れ養ふととりをありあてかの
此をれ正面入りるよ何し一かき一佛也
とらたやとあけては縁とはくひよかけ
ありりれととはあり一節貞主後おらみ
かりい寺に故入道相國又は存養れゆえ
よも年入りありし遺徳て代は高木傳
と云畫像と云鳥琴とあり一合容と変
てありし一し一店敷羨梨のて何よと
りて並云今朝せんは器具と吹祥伝
磬とありし一降りころり一ありと傳の頃

史乃あひさふけくきんよりりこれ
ハ仏のそんとき結つ。畢竟穴の現ハこれ
そくあこれなり。法行音亭眼前なるを
権亮ニ伝中納の方よ人まひりて戸も
ハ源氏もてようら入て仏院より法皇に
初くし結子すとて六くくあはあてさ
り此西國ハ初年あし結仏大匠後下れ
慶原種くくとうらうら結子といふよ

いきてあてしとて結ふとて
是ハ三伝中納ハ目よりあひまうけあ
了所事なれともうあてハあな
心くやまひ結て結結結つるも
そん世さ人さありさき人一人
と何れよとてあんさ事しあか
しとれさかほしあ原よあさうさ結さ
てせんあ結子す小方あれしとあてら

娘も母の神を...
まうりて人...
そのゆり娘...
そとそめ...
ハ...
く...
維蔵...
まして...

め...
く...
娘...
娘...
娘...
娘...
娘...
娘...
娘...
娘...

いへんをりくきんはな程も新三郎中
おお仲おつたおこころは人をもせぬ
給て我ホハこのはこころまのりま
らへせぬよ新章いへるらよのひうせ給ふ
よいらぬはらうんりやとの給へはらぬ
しよふそめとみとる給あけてこれ出現せ
よ殿ころうといふはきんをえかけぬこ
れまハいうやゆり人きんをえあんとふこ

しよかし世なうといふあうれまはうえ
とあまき事けし給へはひきりてお
給り中門廊よえよりいさりてきん
ふらさよ給へしよえよりいさんとし
給りれハ六代も前娘も中門よりいさ
よりいれはふの給よりいさりてきん
じハに給へしよえせ給ふもや新章よ
しよんとえしよい給へしよえよい給へ

わさしとはんしんれほしよ同とあて
られしえありりる無友六宗貞母友六宗
光とて幸こありあらくめしはういほふ
うやみあり見せたり仲あれ二人と
めしての結り致八おのまうと六そはけ
れしこあまふうためしつひはせハ
めしうていしもたりさるんあめてそ
らまもあまうせんとううあひはせしよ

いとけはれものもさるんあくらあはれ
うなれハおのれう二人をさうゆりてお
うあれものこれ杖うらしとたり
り一安徳あてゆ事あはあんちう西國
へあらん心うあはあひおたゆさ
そおのれう折しそいこれうああよんく
致しあまきえとこし久後ハ二人乃
よのともらんうこれなよさうりつあて

しづかに君は流る海にうせしうりて
しれ事あははいのらと孫らんといの
ひきりてはえんととせしれまのつたが
うしにまやこひかえそあつたあんな
現と海をえはらりよは色しとすられ
お母をれとのらよはよおふ子細わ
るそらうそあかけみくらとくかく
ハッちゃんお母ありうなれいあは

てとお母もおふよおとうらん孫を
心うはかぬしはハおひられとも海を
おえんぢううそあら想うらうよんわら
うそまはりて程とらうつとえそ
ひかれとも海はお母あはれあり
ていりうあ孫やうあ孫りよううん
孫つる事とえおいよん事とて
お思はるんはれハ返しをまひあはておひ

はれ人々此事とがひはれふといひし道
せしむかりかりはれ池大洞之れ威
ハ池後よ火つけて志し保威為威仲威
光威あひさけしそらあはれはれ
とられあらしそらハつよこを勢百縁鳥
羽南赤井河原よ志しそらあはれ
ありしれ大洞之四方とんゆりし
る勢ハ新幸あはれあはれあはれ
ろよあり仲元あはれ大洞のそはれ

屋原あはれしはれあはれあはれ
とられあらしそらあはれあはれ
ら矢らりれしそらあはれあはれ
故入道あはれしそらあはれあはれ
さうらり池後と勢はれあはれ
はれしそらあはれあはれあはれ
月意れあはれあはれあはれあはれ

ハコトおこふ海一さありの事か
入道れと念ハいおはかりやうあんれ
いよとこくく一か海一船とまよひ
とていづくともうのともどく女房と
ま引く一て縁さうあつ事れ心うさ
よ結ともみれあつ事一さりまよよ
の結りれハとうくと縁道よ未付とて
よありの事ハいよと縁式一し入ぬんい

流るゝ入らせ結ふ一船とけやうひとと
りりれいぢたさ海よと事とこまれて
ハい流るゝの引ハさともく一とて大船と前
よ打て馬とこやめて海結ふんりれあ
や一くえ思ろ白丸条よの朱雀とけう
よ八条女院沙可に和守の常葉度ハ
まじり結ふ大なるんハ女院ハれと子
宰相度とち女房よあひくせとれあしあ

胡々あひまよりほかりしそらあり
そのまことこれよとらてゆとて中
る寄れらひよけえ勢ありかしてらよ
こころいして見えよ入られられお解
毫ぢりもとあり又うらりうらとありこれ
とと判ハいら道もつとととと沙汰ありと
のと討ちたひのむよとあれしと
池後まゝ原よじうひてらととひまの

らに平は清の宗清よひかきと國く
軍兵よと昔清依いよあられもなとや
越中治郎吉清威次大原俊成よとよ
おくしとたの池後ハそととせ給よとら
あられやとたからと見ゆものかれ
よハは歌は事よゆととととととと
りりゆとぬとらいらんよとと矢一討はくま
りりゆとんとととれハ中くさけくともわ

いぢらん年法志ちうとんとむとむてい後
くもとあらはらん西と見かへる後とくそ
まは母はれりのい保氏とてい心ゆり
せしとがとれ屋つりありとてい心ゆり
かハさんとくといまよと信とてい大後後
の給りり二後中おといよとてい給りれハ
小松後きんをもらしとてい一西とてい
給りすとていれとていありんてい

よ大のねとていあよとていれなりとていれあら
まはとてい一のい給りて新中納言とてい給
てとれおといゆとてい事やとていまとてい
とていれとていあよとていれとてい
目とていとていれとてい人くとてい心ゆり
つりねとていれとていとていれとてい
いよとていれとていれとていれとてい
後れとていとていれとていつとていよとてい

是よりあるもとお月えてあられありさ
新様は権亮之儀仲お継威新之儀仲
将資威在仲お遠經山下見中又之人の
くして後東六田河原とて過て開戸院
乃禮しく祈幸よおひ後記様より二十
ハつよ之夏海とてありもあら大後慶六
は人之もんつけ様とてちちつ記
ころ心代していふてんて様より後記

ハお月つふり後々ようれはとて
様られハ之儀仲おとれよりあれとて
此後おとていふて出渡りあら書付
とてりもみれやうよまはらり様よりわ
アとてまよとたあられもれんくろ大後慶
又いよくしてそまらり様とてそあ
さしてまらりのてれ心合しき事なり
らうとの様ハ祈事とてもれんハ

とてそふふつとていふはみよきな
うはふ比大納言忠一親公如く
給ふれともつむよふ給ふすふ
郷中は前内大臣家威平大納言時忠平中
納言教威新中納言知威隆理右兵衛威左
衛門督清宗右三位中納言重衡権亮三位
中将維威越前三位通威新三位中納言資威
殿上人中納言内亮頭信基右兵衛亮經正

右中将清仲藤原守忠及小松中納言有威
左馬頭行威能登守教經武亮守知章備
中将師威小松侍從忠房若杖守經俊淡
路守清房増總中納言二位治政令親法持守
執事能登中納言清師忠快侍中是實旗捨
北邊使清前法月元百六十余人し無宿村志
如く志了所計二三千子のあひし東國水
國府に於て合戦よふれしむるつと

くよ妹家可也。十尉也。後下等。八音受
寺内大臣基通此。此事なり。右政入道乃此
し。こめて平家よ。こし。こ。控。こり。も。は。よ
法皇。西國。沙。幸。あ。是。ま。の。き。こ。え。け
礼。之。按。政。後。と。此。法。を。あ。へ。さ。す。し。沙
嶋。松。あり。は。れ。ハ。内。大。臣。後。より。と。え。よ。沙。幸
たり。ゆ。ね。と。つ。き。す。これ。こ。り。は。れ。ハ。按。政。後
沙。幸。あり。は。れ。と。法。皇。を。此。幸。と。ま。か

ま。も。れ。ハ。此。心。中。ハ。あ。は。れ。し。り。り。と。せ
法。り。り。よ。此。こ。と。よ。は。も。は。進。友。は。情。の。尉
教。範。の。法。皇。乃。此。幸。り。あ。り。為。法。の。子。平。家
此人。こ。と。あ。は。れ。し。あ。ら。さ。め。と。控。は。ね。こ
ま。り。選。沙。あり。は。れ。は。如。此。次。と。す。こ。り
は。れ。ハ。平。家。れ。あり。し。こ。あ。ら。は。い。し。あ。は
屋。見。と。此。幸。と。あり。は。れ。ハ。教。範。を。思。か
り。あ。り。や。う。て。此。事。と。つ。め。つ。る。は。う。し。と。い

よ目と見の影さうりはれハ七条朱彦よ
かみくらまのまじやうとくしとくあてはれ
ハかまやうれうしあてありはれハさう
しとくまじやうのありハ還沙なり
よりり平家れさうハ越中治良若橋
威次とれとんまじやうとあらし
給ふようくらとくまじやうのふか
めゆいし影のんまじやうハかて矢はけ

てあひまげなり粒籠進一のせえゆ
ういりらと大後とん給て年ころれ
ぢうけとかりひ初とれてあらん人と
ハいらとありぢん一門人くまじやう
あまじやうと給とせんぢんまじやう
いし給はれハ威次河海よりり攝政殿ハ
給ハからしと給て西村守とまじやう
初しと給給てうれなり知是院ハまじやう

世路のこれと云う事して拵政後いよ
一乃くおれと云えりあひり海鹿よ
源氏海よりくるときくられハ眼好吉
貞徳就むくひをよりむるの辨事あてわ
りしれハ海より来よけ人これあらは
よ。乃あひよりの貞徳ハこせうこれ
そこれにあらはれおろしむらうい
大信後ハ此能よ馬より来てらと見よ。

と云みてはよきと一そりあ
歌ハあれらやこれハいららと云
世路ふらや歌あてしそふしかくわ
海より海路ハ西國ハあらせ路
のこれとせ路少く云り又こい
流り路路少くハ海路ハ人
と云てわらこいしと云れてか
福と道此路よりよきと云ん事

心うりれいふいよあつる事うや新中紀
云本二後中お慶引くやせ給くけうあ
いふはて後代乃物ころりよせこせん
ら夫二教あふかひんようころり事由
ころりあふくあふく河事もか記
了あ教事あれんや家たれんよ
さふ習給ゆめはせいあふてかふいぬ由
ゆへい給ようころりあふん事う

きそりあふりれい新中紀言を大后
慶れいあふくあふてゆえにあふあふ
かり給り大后慶の給り後い自給ま
しあふあふ天衣あふこれけりて大
ふくよあふあふんあふりいあふ
あふりあふ後もあふあふあふあふ
あふ一あふあふあふんあふ二後あふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

のちちしつれに池大紀を交ふしめい
てあはれりりされとと保成としりて
へら入と平家もは引りれ忠治もと
磯山と流る忠公院して八条院より
此事ゆりてとけさせ給くとすれはれ
ことりれしかるみされ乃世にれい
ハ平家給人き院れは事よはされハこ
そいよも事れかきぬと女房よりあそ

さう給て流取由とそこひめさしとれ
ハ少向れりれととけくおこりてあ
て給ふへりて平家れこり院
乃らりて世給ふ可とあり祢りんせり
山よりて世給ふよりきさしとれハ
乃と祢りんせりおれいとも祢り
てと更とわけぬとハ貞徳とあし入
て何とふ事とけりて沙院よりあそ

れきりのあるはしりさういへんしつこ
しつ則して中と八かむり威次京流入
流た事ハ僻事少て元ありり自能
うけはかりともちうおよびしつ
とうしあらしのりゆれ中しうあけ
と日ころめしと元しり流家在國の
とも字部文は流の耐胡徳昌山元日
能小山回別高有定在京しつありり

う息可後ふられ昔流流よきし
よれハ是亦ハめしつあしつ
西國一しつ斬るしつあり
と貞能うれしつハありあされん
よる海しつしつせんしつ
無しつはらあしつしつ
て和國一しつしつしつしつ
れハ海しつしつありしつしつ

一 行くち方とよかされてハかかれとも
十とちかれと却とちかれと一とちあかき
一 妻子とよかされさかれハいつ道も
やうさりり子後乃ち後やくと男山
おくと南無八幡之山一とちかた
入るを後一とちかれとき福ん志福ん
ふれとも神道といふありんところか
一 梅とたは江とは一人のさりり

一 一とち前途万里乃浪とよかかれ
おら行く處一とちかれとあうれおら
後らんかれと一とちかれとあうれ
おら一とちかれとあうれおら
事ハ薩摩とち思及ハ當世路分れ好古な
一とち法皇とち法皇とち人後成以勅と
千載集とち一とちかれとち思及案多人
臨り後あひり一とち法分れ過より海

後成にれふ系京格の宿前忠前より
へて門と毎々せられは旧よりある人
とととて瘡摩と忠及と名のりられ
唐人よりとてせられは、まじきに
通事とせられは門とあけたりられ
それ時忠及別乃事よりは、ゆきすは程百
首と信より福とゆと見え系よ入として如古
へおとん事れらとて、まよひらては

りては何々今々く人記より
見えよ入ゆやとつひよりられは、之は
これとゆして初めは、まじきに
志のありはあは定初直れ功成ゆん
君とてあはありは、まじきに
あはゆとては、道よ名とて、まじきに
此の目もあは、一集より、これゆゆは、
ゆゆは、ゆゆは、まじきに、まじきに、

首乃れ此のぢんやからうハ又念佛と
此よりいふは通しとて名ひふれ申より
百首乃れ此のぢんとりて門よりい
ハ此をいふは忠度等は西海乃れ浪よ
心とていせよおのれ事ハ此の
ハ入世路一とて後よかて海より後
成り後よかて内一海入とて
いふは此のぢんとりてあ

此中よ此のぢんとりて
忠急

いふせん文も此のぢんとりて
此れといふは此のぢんとりて
此れ集えりて此のぢんとりて
道より海より一とてあ
たし初劫此人名と入新事と

あり事あれハとてハ二首とらん人
 くらとてえ入られありは信延喜天曆年
 号とあるよとれ龍山一条皇孫と所名小
 付録ふとるハ胡歌とはひあさうくら歌
 一かりし事也なる願の威と約あり
 以道と好て京極中紀云入道定家以て此
 州のく神くくりては神威は神よ
 神くくしてゆひは神きは道とれと事

あみ孫きしはる程よ一門歌とあらし時日
 ころれ名あて和しとてあふとけくも見
 多海歌も書あひめて好の初りいあ
 よりしわあゆまれあんかよと海かよ
 書て神の歌よく世中あり斗る

あれはあつとやと海はあつたあつたあつた
 定家あつたあつたあつたあつたあつた
 一とり撰集あつたあつたあつたあつた

かじりし書は後成以忠度のあは讀人念ふ
とてそ子載集よ入られりし事と心
うり重よ如くして後河院沙時新初
撰と云ふりしと此之代名とありて
うりおそれたりしは是の代名は云代名は
れは河うりし如くして是の代名は
と名とありりしとこれあは入られりし
うりやうりしとありしは是の代名は

危難正の幻少より仁和寺守光法親王
れは河うりしとありしは是の代名は
うりしとありしとありしとありしと
二人うりしとありしとありしとありしと
て入られりしとありしとありしとありしと
既に帝位とありしとありしとありしと
よきありしとありしとありしとありしと
うりしとありしとありしとありしと

うきやうの事ハ悉くいよいよと見まはしむる
そ一万里の浪ようもひいん事うか
折しこれ中より帆みおくゆいり入
うりこれハ交ハ世おきよしうりおわし
先トあれども又も此況世想事とこ
それ道とて別道前へゆられり純正祈り
妙記よ露とぬいし家よりいりてれり
前黄れ系感れよりいしとまきこりり

二人乃竹敷胡守尉と曾きこり純正な
くくくすれきほハ十一歳とゆいし記
よりけしやよ初系はて胡夕水前とゆ
らもあれゆいせゆと叙齋はくたど
禁裏仙洞の仕のこりもはなふと
てこの世もよまいらんとのこ好いしは
一目よ二度まひる日ハともゆいし怒日ハ
ゆハさうりに款とあかゆてらんせいん

旅泊の夢よよむ八重井垣隈と清原の
てゆらん好ハ御系主の如く志す所はこれハ
と一度志と見まはせんと悔てきん
とわたり見ゆつと相衆はてゆきて夜
九部有威よよむとせむり昔は沙ひいと
さうよをえあつけくこうれてゆきん
ハうあらんせうくと母とらあらし梅
と好は道ともみ筑とあ梅乃庭よよ

のめらん事ゆつたゆてりらてまよひ
てゆたりとて錫乃袋よこれあらし
前よう一おつは是と沙流しては海よ
む勢をまよしては海書よおよん
沙衣れ種と志すは本也けきん
此器巻ハ村と天皇れは付秋乃夏月く
まれく風れ着身よ志すく新ふと
ちく梅あらしははよけはひをたげ

一帝万秋樂其秘曲と譯せを給しよ
更國表をりよまじ歌うよ。少撥音り
よりとよみれりて身よまてきこ
えりはよよ六条其秘曲よよりて天人
のまよりて迴雷其神をひりて
別雲とてれほりよよりをれらに
此ひいと人ひき事なりりり此
帝れ此歌めてありきと治りよ此
りていよ此此方よゆりて此寶物れ

の一ありありも此と此此心十七歳あり
くひよりまて宇佐文物使ありて
りて此中りて宇佐此此教ありて
うとれてりて海を樂とひ此多り
しよは神明少此更ありて天皇れ
らりて社禮ありてまに此此此
者矣此瑞とねりて神明此此更あり

いとそ樂とはい路やみく三曲こそ一
流泉乃曲と云々見よくられきれハ交
人ハありりれハおれく秋と云々あり
村と沙字よりこあさ凡人これハを
ひ見事絶正一人とあり書信ハ取寶物
なりりれハ鏡正あよかて柳見ハお
母これりれととこれと所説せんといふ
とに思食出はまといれし書とお母これ

りれハ此ハとを悔いしせあくるとい

これ竹乃れれ重ハかろ福と程とありぬこれ中ハ
交沙渡とわさハせ給て

ありと云々神我渡と云々見よははみてとわく
沙正よあさくはちたりし人くあまし
ありりり中子侍候清所新絶といり人
とんさくわい入られあり

みれり怒老本と云々山と云々おれははるる歌ははる

よめいつれまゝいせんとゆらとわけられあ
はふれうらうあれあれえり幸子遊
付まゝうてそあそぢくうあれとみりれ
ハかくえあひいほるあ

少幸とあそびとあそびのあそびはあそびはあそび
平家ハ福永乃舊湖よつとそ一夜とえわ
それああれく福のれはうあもあり
てはさ聖靈のあそびはあそびはあそび

抱し初念しそあそびあそびあそびあそび
いそあそびあそびあそびあそびあそび
わあれあそびあそびあそびあそびあそび
入道はあそびあそびあそびあそびあそび
まゝあそびあそびあそびあそびあそび
いそあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

て甚可と云結入のめんおら、うてうけ
じとりおんおら、三有りて牛ふる此婦と
行ふ及なり、田實法眼、書寫法書志、
早法氣經八軸、此經と可くは、醜塚
より世院身つ、うれ美ら、いみ成、世結
さうありれ、みれ二、後、沙神と、か、ま、と
一、あり、い、お、月、せ、れ、ら、ら、設、業、部、か、ら、り
ありて、他、界、志、結、子、も、い、成、一、か、ら、る、鳥、

一、や、う、一、と、執、さ、く、海、一、く、ま、の、葉、れ
う、げ、あ、と、梅、より、結、入、世、院、と、う、れ、も、し、う、
世、結、の、え、う、一、と、い、と、成、一、見、志、結、一、小、松
田、前、れ、子、と、し、う、ら、札、是、よ、あり、あ、せ、り、
く、と、き、後、と、せ、れ、あ、と、れ、結、入、と、と、さ、く、
う、ら、お、と、さ、り、ら、り、け、ら、ら、な、く、よ、種、な、り、
の、藤、れ、定、お、う、か、ら、原、と、い、ふ、事、何、一、こ、こ
え、ん、お、う、く、お、月、う、れ、け、あ、と、な、る、ま、い、一、ハ、結

乃少可入世始二位及りて此海にせて
南向よまゝ海を内大臣家威新中紀言
知威大臣此乃ま右より海に始て威に
りこれる勢をつゝものともと見えん少くハ例
皆く原るゝ心より志をゆや流れ也
お母もあゝめゝ久く三つりしりこれハ
肥後守貞徳亮源守系家（三つ）の越中前司威
俊少下将ともとありて二位及りて此

昔は八位左衛門尉家之流に後醍醐天皇
殃刃よおのひ神明よともあつて此天皇
つりもよと推されも帝尊と海に出入
て龍泊よ海より入るゝ心より此海に
くきれんともいふはあつても一三西に
りけよ屋ももも前世にちけりあつて此
一海にちれともいふはあつても一三西に
婦一ちんといふんやあつても一三西に

うらひとある家人よあつと累祀相傳
の門家なりあつと親近の好く是他にあ
るあつとを言代れ芳慈うれふ祀とあり
家門繁昌れじつと慈潤よよ私と急
せんきむれつとくかれんきつと
歌よハちゃん乃思心とあつとくす
見ハさらんやれうく十善帝と之禮を
祀器由身よとくくして海とせハ天照大

神と立海く家君とうゆとれとくみ
ゆとつとゆとつとけ事とあつと宿運
つとれ我なりとみやよ。念我の忠とけ
ゆして二つとゆとつと入とて道
流と討ぬて流ハ青よ部名と大坂代よこ
とめんとかつとゆとつと野乃す
念とれとてゆとつと念れおつとせゆとま
うん可く道とゆとつと出れゆと入とれ念よ

あつていふもいふはかきりたはありき海
と見えそをなむしとれ終へハ二百余人は
前よあみしつるものとおおもちもり
路と渡とをりし神をたゆりてすは
今は思れあはしは之令ハ儀よよてか
ろりれハ命をハお徳乃志よなぬあや
れ多けしものいよと想と報し徳とく
あふししとていふうなほれいよとん

や人うしていふる年毎日名れ言想と
しうれて志をば換ましとせしと女余子
乃あひしと宿候とて録とて公身よお
いそ名よあふん事とていしとあはれに
郎候とかりりみし事とていしと
志れはあふんよあふしとていしと事なりし
申らふれ通よ二とて好とていしとなく
世れららとす没日不國れあふ新

粟百斛國書此とて海はとてあらは
かきれもてまらるゝ一と治と一日は
れハ二後と大後ともまらるゝ
くも海もてうれしきもの
らまよつとまらるゝまらるゝ
摩也忠度かくららとまらるゝ
とらぬもやの雲井もまらるゝ
既記大失絶感以

鳥之機野此に海とて
平大船云

漕米浪とてまらるゝ
同山乃乃
磯ありて海今とてまらるゝ
海にたまりとてまらるゝ
まらるゝ
見をさすともちくもまらるゝ

をさりつゝと西海にありとく雲海沈く
うして蒼天とてよあそびんとて孤鴻よ
霧もわけて月海上よりふ長松に洞と
出でて釣舟のりつめをこもやむの八嶺猿を放
よみととおと落し極浦の浪をたて崖に
ひかれて沙船の舟も天に雲を介りさらけり
夜涼かきそるれば秋はくもれ女目あま
了れ月出でてさるりよ涼は定ると志月あ

らしれ音とこをくす草葉よすく自
露もあつた命よさうあつた秋も初
風そららしきりやうく萩さむあり
ハ旅秘れ床の草枕露も波とあつた
そらよ物さうかきしけれ二後大後
も一雨よこしはひてさるしはくもか
あつたを旅あつた入道かき海事
とくさるれりあはしと志見て

都てそくし松と流るりおくれぬりなる事
此ありれこよなむとありここの事清其事
との流るりこいへぬいよむさこよな
し給事流るりよ夜とわれくとあな
りり事家れあそ源氏よんせれとん
浦乃此示よりこいへぬとよちと
て主と女院と娘もて二後少政事下人
これ此船よめしとて万里れ海上よりい給け

歌ハ此英片くこいへ海と赫奕あり歌
とこらしとやこらありれもこれと名
ハとらりり海人れくとれターが尾
よん事廉れあつたのこ念みれさくよよ
とる流れ音神よ夜と月れけ目よん
みよ物と事とこいへあなことりよ
りり流るり事と折し事家ハ流元れ去ん
歌とこらしとこいへも事永れ秋れあふと

ちりちりして八条草屋の波にたつ高館あり
ほくはて福原に里内家よしの歌よき
風をとりけ煙雲をたもく龍頭酌
首と海上より入て波乃入に釣幸や
とれ時とちりちり磯邊に流しれ紅
ハ神れ露よりけりきとくつん月夜
祢乃古れ三流見ハ古乃将れ三流よあや
まはれ月とてさうしうかた少くはう也

へ。まのこ霜かへはりれ葉乃とらき
いのらとあや物しとてはるさうとあはれ
ハ腕のそく^みとみかた海から浪ハ夜半みか
くくくれ白鷺れとて松よとれわ歌
とんくハ浦氏乃とてさういふかとう
くハ夜鷹れ遼海よちくときそハ古
ハ松とこらるとおとらきま風よ膚と
破て翠黛紅歌のよとあひやう御くおと

ろへ菴波眼と穿て懐土印郷地ぢう
と和之くく郷相重家此胡歎とあり
欲と玉れわくとうくんじく教系乃件
磨とふ人あり乃り贈左政大臣武智磨
れり也高野女帝乃此時帝此迄父兄等
おく内外批訂くくは給も乃禮よ此寵
臣と行りて天下此政と此れまじよ批訂志
て世成せもものひ治騎て一族親類こと

くは胡慈よわくこまり番沙流此れ
ハまららよあまがくくわんくあうら二
文字とわくて惠并伴磨と名付られと
とありくくわくはわは押辨と名付られよ
乃海大保左衛門よいりくは惠并大臣
と名付られ乃家目と給ひをわらわら
くくて威雄ありくく人乃柳畏乃
乃此平家れくく目からくく禮よ首

と云ふと世に於て一と書ハ河内國を
削と云ふ事ハ逆鏡法師と云ふものありぬ
されて禁律よはるんや意猶法を以てけ
教を以てしやありん事ハ沙羅也と
されしとて惠善大臣に控務事ありと
ありぬ也と云はれり法師乃ち為よ
て大政大臣よなされしと云ふらん
也月一ありて大和云和名法廣と云ふ

うして字法をへりて世に於てありぬ
ゆゑこれとありりれはらるぬと云ふ
事ハ法皇に於ていと云はれり
削法皇と云ふりて惠善大臣に削法皇
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
平寶字八年九月十八日國師と云ふ
事ハ人として罪道よありしは
さしり寵臣なりしと云ふ事と云ふ

られて飛ぶ。おこちんといふ結しうハ
大石若狭の門をくせせんとてハせん
とれとも坂と菊回九とちのらんうて夜
去りゆくせあけりるハあまのついで一
門のさしうて結とて東國へ赴くは出
流とわくうひてあはれ朝家とらうとんと
あうみあはれと宿長とてせよとて
さしれハる結しうひて塩原海原とて

致賢れとて越て越前國へゆけしうりあ
いへしうりり海原とハるハあまの
うてせせりれハ大石公卿とて人の
あうとあうとて一とて宿長とて
ついでせあしは結よとてあまの
はれとも風とてあまのついで
とてよとてあまのついでとて
とてあまのついでとてあまのついで

わよぬに因よそうされよるり一うは志
心敷い何や合ふれよるり一うは(あま)心
へとらゆれりり公郷よふと八人首と
と神よれ想よ上たよかほあよまよま
ことありり信よこえうなも給平部れさかく
あそよあり信よありと海と又胡歌よは
よて家よよ大よまよと部よおらぬ信
事やうと恵あよ信よよとよと信西園

おら給よりよとま月うあよきよあよい
まやろいひぢんよるのれおとあよ人こやあ
ひり信信ハ鞍よ寺より葉よ坂小竹の
らよまよとあよ一よとよとえよ給て
横河へのやよ給て解腕の夜兼場坊へ
えよと世給るの如院一うとよ給ふ(き
よ)一太元やりれハ本塔へうり給て南
管れ給殿房へえ和よと世給るのかりけ

道ハ元後と或古といふくらくは
齋齋坊北西にちりくゆりあり日女又
日法皇天皇山より初こせ給ふときあし
りれハ人こられそ給よとせまはる所行政
殿と申殿 大内院宗在大臣通定公
九条殿 内大臣
実定公
後法太子 上りしと申もく大内院言衆議
兆衆議は後女院殿上人上下北面坐す
しつりまそ世よ人とてこも侍こと候

一人とゆれとてんせられハ齋齋坊よ
は堂上堂下門如ひのなりけり海は
山門乃繁昌門臨北西面と見えん平
家ハおらぬと給ふと申よとてしつり
ま給ふときけり神女八日山下路ありと
江原氏瑞正利冠志とてしつりて
先陳ゆゆりありこれ神八平家此一族あり
しつりありしと申くはしつりし

源氏れきしきいまうりめりしき
わたりめりれきしき相雲家誦しき
遠近主院れきしきいしき為給りしき
こし目れ辰時しきしき十部苑人しき
園より本情しき越てき入想未冠斗
に本骨冠しき也江國より東攻本しき
てわししききききききききき
并徳屋源れ源氏しきしきあ人よあし
しきしきしきしきしきしきしき

しきしきしきしきしきしきしき
より入しきしきしきしきしきしき
衣蒙しきしきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしきしきしき
廿九日しきしきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしきしきしき
光しきしきしきしきしきしきしきしき
款遊討しきしきしきしきしきしきしき

よい海流をたどるやうな船が八
幡衣乃よりいづこに礼を志すやうに此
よりいづこに名を義仲八幡衣錦乃
と改めよかすあやうに此曹にたよ
ふ梨衣衣衣の想より一歩は此家
八幡衣此の如く沙路で東山と守護
と義仲八幡衣衣衣の志業の志業西洞院此
亭と給て法中と警固とに十余日乃

前より平家より胡愁あがらうて此
氏と追討せよと云院宣せん一々
これ一々。平家より。源氏胡愁よ
りて平家と追討せよと云院宣成
ふ。平家より。源氏胡愁より。平
家とあり。平家より。源氏胡愁より。
ひりれて西國へ赴給ふ事と云院宣
よりんや。おほし。おほし。おほし。おほし。

よろ忍一入事人きより一平大和玄内忠
以乃事しく院意とくさくさくとも人とも
平家もしく福人ちくくわよんかへて新
まを丁くそゆわのくさより一院後よよ
て公郷せんさありのまよんきよわ
歌一さより一ゆらら乃かふ福をわゆせ
られていふなこくれゆさこにわのく
しつるもし一ひんこれ志しこく世経

心とハ法皇よりわたり後よせき勢あり
ゆとくられとくさく人くとありま
祚乃例ハ百六十六代皇極天皇女八代
齊明天皇是ハ女帝也男帝此重祚
ハ先例折しとくさく人ともありりり
ありいとも鳥羽院此し姫交ハ系院沙郎
後ありさかともさく人ともあり女帝
ハ中十女代の神功皇女よりし一先

まゝに推古持統元明元正也法皇御母
一々御事つら為給り丹後乃次御孫
甲子元正の故高倉院文子と云ふ家
自列を叙之に交へる事一々御事つら
小卒家世小卒を以て世給てしる
初より世給つてしる事一々御事つら
しる事一々御事つら
まゝに御事つら御事つら御事つら

御事つら御事つら御事つら御事つら
御事つら御事つら御事つら御事つら
御事つら御事つら御事つら御事つら
御事つら御事つら御事つら御事つら
御事つら御事つら御事つら御事つら

Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, covering the right page of the notebook. The text is written vertically and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

1889年10月16日



